

寛永諸家譜

宇多源氏
七卷之内

156

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186 (156)		
函號	特	76	1





森川

源水

寛永諸家系圖傳

宇多源氏

森川

● 定徳

依木右卿

信徳

近江守

春徳

志保守

新徳

備中守

淺草文庫

宗徳 しゆんたけ

坊部と号と

左馬村

宗泰 しゆんたい

八郎

右泰 みぎたい

左馬村

酒泰 しゆんたい

左馬村

右泰 みぎたい

三郎

秀定 ひでたけ

左馬村

泰氏 たいし

左馬村

良泰 りやうたい

右三郎八道 みぎさんらうはちだう

宗茂 しゆんしげ

坊部と号と

尾形比良の郷子氏と

織田源太夫より信濃守に
御物成りて
御場と号すと

定通

森河入道

基

森河御前

永禄年中今川氏真より信濃守

より信濃守に御物成りて
御場と号すと

に七年御前より信濃守に御物成りて

御場と号すと

森河御前より信濃守に御物成りて

御場と号すと

森河御前より信濃守に御物成りて

御場と号すと

森河御前より信濃守に御物成りて

将^{しやう}んや汝^にと^と有^あり^しむ^く致^{いた}る^べし
ハ^ハト^トと^と逐^おり^し門^{かど}と^とひ^ひく^く実^ま
お^お敵^{てき}敵^{てき}人^{ひと}討^うち^たる^べし^と一^{いっ}脚^{あし}付^つめ^めと^と

女子

塚^{つか}場^ば与^よ三^{さん}郎^{らう}氏^し通^と一^{いつ}書^{しよ}

氏通

塚^{つか}場^ば与^よ三^{さん}郎^{らう}凡^ひ列^り以^い良^らの^のり^り位^ゐと^と

織^お田^た浮^う正^{せい}右^う大^{だい}一^{いつ}郎^{らう}一^{いつ}書^{しよ}
永^{えい}深^{しん}三^{さん}郎^{らう}一^{いつ}死^しと^と法^{はふ}名^な道^{だう}名^な

重次

森^{もり}川^{がは}由^ゆ業^{ぎやう}生^{せい}回^{かい}尾^び法^{はふ}
天^{てん}正^{せい}十^{じゆ}二^に年^{ねん}长^{ちやう}久^く手^て沙^さ陣^{じん}の^の村^{むら}森^{もり}川^{がは}
今^{いま}古^こ者^{もの}村^{むら}氏^し後^ごと^と同^{どう}凡^ひ列^り以^い良^らの^の城^{じやう}と^と
備^び前^{ぜん}一^{いつ}郎^{らう}一^{いつ}書^{しよ}

大^{だい}将^{しやう}現^{げん}一^{いつ}郎^{らう}一^{いつ}書^{しよ}

同十九年江戸に假して銘號と
する

享長四年より死に歳七十一
法名道休

壬次

存素 生回同あ

大権現より法名とす

天正十二年長久の法陣の時

氏後と同法名乃城より
後

台徳院殿より法名とす

享長五年開光の法陣より法名

大坂の法陣より法名とす

寛永九年より死に歳七十二

法名常清

次書

唐三象

生國氏為

台漚院殿とてい

將軍あうりけいん

寛永十六年大坂よとひる金銀
の持ちとつとむ

次政

唐三象

生國氏為

寛永十六年

將軍あうりけいん

正次

酒場曲とて

生國氏為

天正十二年長久之の陣のとき

氏後とて同比良の陣とて

とてい

大権現大権現一湯湯一一くくゆゆ
同十二年同十二年もも病死病死 法名宗源法名宗源

重次しげつ

森川勝左森川勝左 生田尾張生田尾張

天正十八年天正十八年

大権現開東沙入田大権現開東沙入田のどのど記記あつあつつつ
くくままつつらら 領地領地ととああらら氏後氏後
伝伝書書ははららよよくくくく 垢湯垢湯ととああららああ

森川もりがわととなりなり

長正年長正年開開系系沙陣沙陣のどのど記記氏後氏後
とと同同傳傳奉奉

大坂おおさかああらら沙陣沙陣一一氏後氏後とと同同

台遊院たいゆういん殿のり傳傳奉奉

重剛しげつ

森川もりがわ傳傳奉奉 生田なりた氏後氏後

寛永十六年寛永十六年より

將軍ありけり

氏後

森川合志の母、森川定通の女
大権現氏後が介叔又助志の付死より
義ありとこそいひし親族と云ふ
ことせ給ふことありしは、
ゆきほくしとていふは、
かふり堀場とありしは、
森川と云ふ

永禄十一年十二月三列堀河の城と政

ふとこそ

大権現入山崩り沖を陣あり敵を
さかす競來るふと云ふは、
奮戦と敵と討首級と均あり
元禄元年姉川合戦の時こそ
大権現加勢として沙進發ありと云ふ

供養陣中よと云ふ首級紙
ゆきほ

同三年三方原合戦の時わしり
とがりく疵敷ケおとくあふ

天正二年甲州堺前田はあを列の

を名こり進軍ふはと紀の大將の山縣

繼頭小菅上卿若木なり上田を以

福崎もましくんく玄黙はよつこ

しとひく睡初も若木後若先登

法と合款と進

同三年長藤合戦の時記崎田浪義

か放るはあもく一雨しとひく鉄炮
ともあり柵さしよとひく首級と
ゆあり

同七年

大権現を列何良といきありなきはふ

とれ作文しとんで修業の人と

何し時し安政市刀若水傍ととも

とびか放るはあもく氏後あ金所

後より純付歩しり信長とこくに

とひく

大権現の道と慶長一統

日九年是將二十人とあがり

日十二年長久の合戦のどに親戚と

あがりく尾川比良の古城と守り

の修とふふ通くは地り指らぬあ

いとに河勢一即加勢やと来ら

日十八年小田原陣翌年奥列陣

等一統也

日廿年是將五十人とあがり

武列りとのく二千石の地と

は河氏後の親戚の人比良郷と

りかこれ即氏後かありとな

長三年の死と歳五十年

宗格

長次

森川由良 生田尾法

天正十二年長久手沙陣の事
氏後と同日長良の城を守り耐

大権現より湯（湯）〜

同十九年よりほ〜

〜よとの〜酒場とあり〜

森川とありのり

右徳院殿よりほ〜

長久手年刑ヶ原沙陣の事

右徳院殿中山道よりほ進敷の別

信守

元和元年より死と歳六十六

法名宗盤

長貞

文芸

右徳院殿よりほ〜

大坂支度出陣より信守のり

將軍あり〜

寛永十六年より死に歳廿八
法名宗本

長後

御在り 生回回

長十三年

台座院殿より得

大故あるは陣より修

元和二年後河忠長卿より

同年の地より

寛永廿年

將軍家より地より

長重

御在り 生回武

寛永十三年

將軍家より湯見より

同十六年より湯見より

重成

森川久左衛門 生回尾法

天正十二年長久寺合戦の時以後

日向良乃城とありてこころよく

大権現と湯一とくま川

そのとき年開ヶ原陣の時

台榭院殿中山道より河津渡の別荘

同十九年江戸へ使して徳川家

町一跡場とありて森川とあり

大坂より河津陣の供養

寛永十二年の死と歳八十三 法名

宗昌

重次

久左衛門 生回武勇

元和八年

台榭院殿より河津へてより後

將軍ありつゝある

重定

三十郎 生回同あ

寛永十三年

將軍ありつゝある

重定

坊場小島 生回尾張

天正十二年長久手合戦の時以後と

同法良乃城とありつゝある

大権現より湯へつゝある

法名常新

重氏

森川八郎門 生回同あ

文禄四年

大権現よりけしつゝある

とほふ河より堀場とありて
森川とたり

長正元年 関ヶ原清陣討あり

白河院殿よりしつゝくまもり

大坂ありて清陣より修葺

寛永十一年より元禄六年 清

常清

重政

小菴 生田武経
寛永九年より
將軍ありしはくまもり

女子

真野のたき

女子

山羽新たき

氏信うぢのぶ

森川全孝の 母大村越前守の女

文禄元年十月歳あり

台座院殿よりゆみききりつりて

享長元年又氏信病氣あり

あつらふ乃親戚らりて是時五十八

と氏信支配是の 伯とあり

大権現よりはくくありつり十八歳

同三年氏信死すのり 均余り

よりくお督とけく

同五年開き系法陣のそ記信よりて又

台座院殿の修せとけむ

同七年徳川より千石の地

くつりて

同十年

台座院殿將軍直下法森内務の時

氏信治方となりて庵長と

大坂あり陣より侍

元和九年

將軍ありありしつと海りかき

台徳院殿の位とかしふ里

將軍ありしつと海りかき

寛永三年

あつりしつと海りかき九月二条の城

りしつと海りかき

將軍ありしつと海りかき

なりしつと海りかき

同十年先よあつりしつと海りかき

親戚なりしつと海りかき

いしつと海りかき

將軍ありしつと海りかき

十騎とあつけらふ

同十三年あつりしつと海りかき

あつけらふ

氏之

元九郎 母、酒井仙太郎重勝女

享長十一年

台德院殿よりお湯一斗、母の時九歳

元和九年

將軍おのり、河

台德院殿より、命と、おのり、父氏信と

同修

寛永三年

台德院殿より、河のと、

將軍おのり、河のと、

信と、おのり、河のと、

礼

氏時

三郎忠 母同

天和五年、十三歳

之後

白徳院殿ニ賜^レ一^レ室^ニニ^テ長^ク居^ル事^ト爲^ス
寛永七年沙小姓組の番とつて
手^ニ書^ク院番^ト入^リ今^ニ進^ル番^ト
の役とつて
同十一年武^ニ別^ト本^ニ爲^リ所^ノ目^ト爲^ル
所^ニ也^ト

小石巻 母同

元和八年

將軍^ニ爲^リ賜^レ一^レ室^ニニ^テ長^ク居^ル事^ト爲^ス

十二歳

寛永二年沙小姓組の番とつて

のり沙書院番の役となりま

進^ル番^トの役とつて

正次

勘^ル由^リ 母同

天文長二年

大権現より為福一々々々少沙小姓組

の事と法と心河より十六歳

同廿年開原沙陣に侍也

同七年あり〜主簿生死簿あり

所と花浮ちり甚舎津宰相病の

後加賀中納言より法也

寛永十八年より死と歳六十

法名瑞見

友次

森川勘助由母永川在佐ちり女

加賀少将より法也

次弘

森川任織母同

加賀少将より法也

重後

森川が羽書 母同

長二年十歳少

台座院殿より得たるものなり

同十年宇都宮よりとくみ本所

より涉る所のと記付

同十年御命よりとくみ下

殿

同十年と記付よりとくみ下

とくみ

同十九年大久保相模よりとくみ

時重後よりとくみ河井なる所

領内よりとくみ配流せらる

同二十年夏大坂陣よりとくみ

より陣よりとくみ五月六日合戦

より井伊掃部頭よりとくみ

より掃部頭よりとくみ

領内よりとくみ

ゆきりなるもの射と自ら成るる

寛永四年は教先と意ありしにこれ

総引と列お列とよひしに二万石の地と

あなよしつあり奉納職乃未席と

列一奉書一判とらるる

同九年

名徳院殿堯逝の日記切服し日來の

系恩と報一其志と述 歳軍九

法名正英

重改

才海 母没不共庫頭貞重う女

寛永四年二十一歳と

名徳院殿と

將軍と一為得と

同九年重後死して後 鈞命と

よりと一督と

重如

七葉 母曰

寛永五年十月廿歳

將軍ありお備

同九年沙小姓

沙書院

同十一年

信太

重光

八郎左衛門 母曰

寛永十二年十月十七歳

將軍ありお備

同十五年

女子

清口

女子

坂部

女子

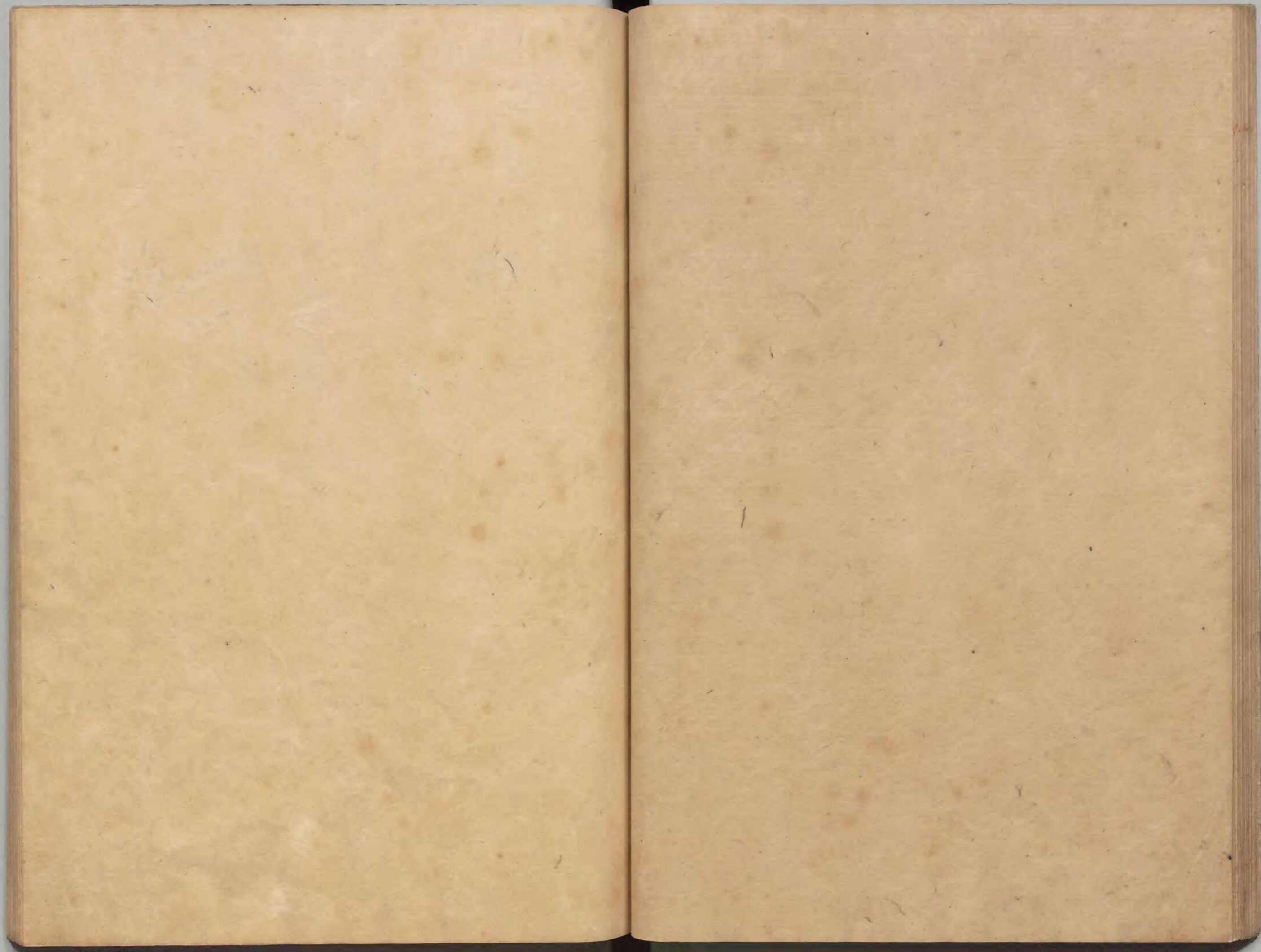
古原氏幼少補 忍直之妻

女子

指植按津与重徳之妻

堀場安乃紋 藤

森川安乃紋 鳩齋草



森川

● 某

吉野右京

生田尾法

織田信雄

信重

吉野右京 生田尾法

長久手合戦の事には氏後と同法使の
城と侍あり

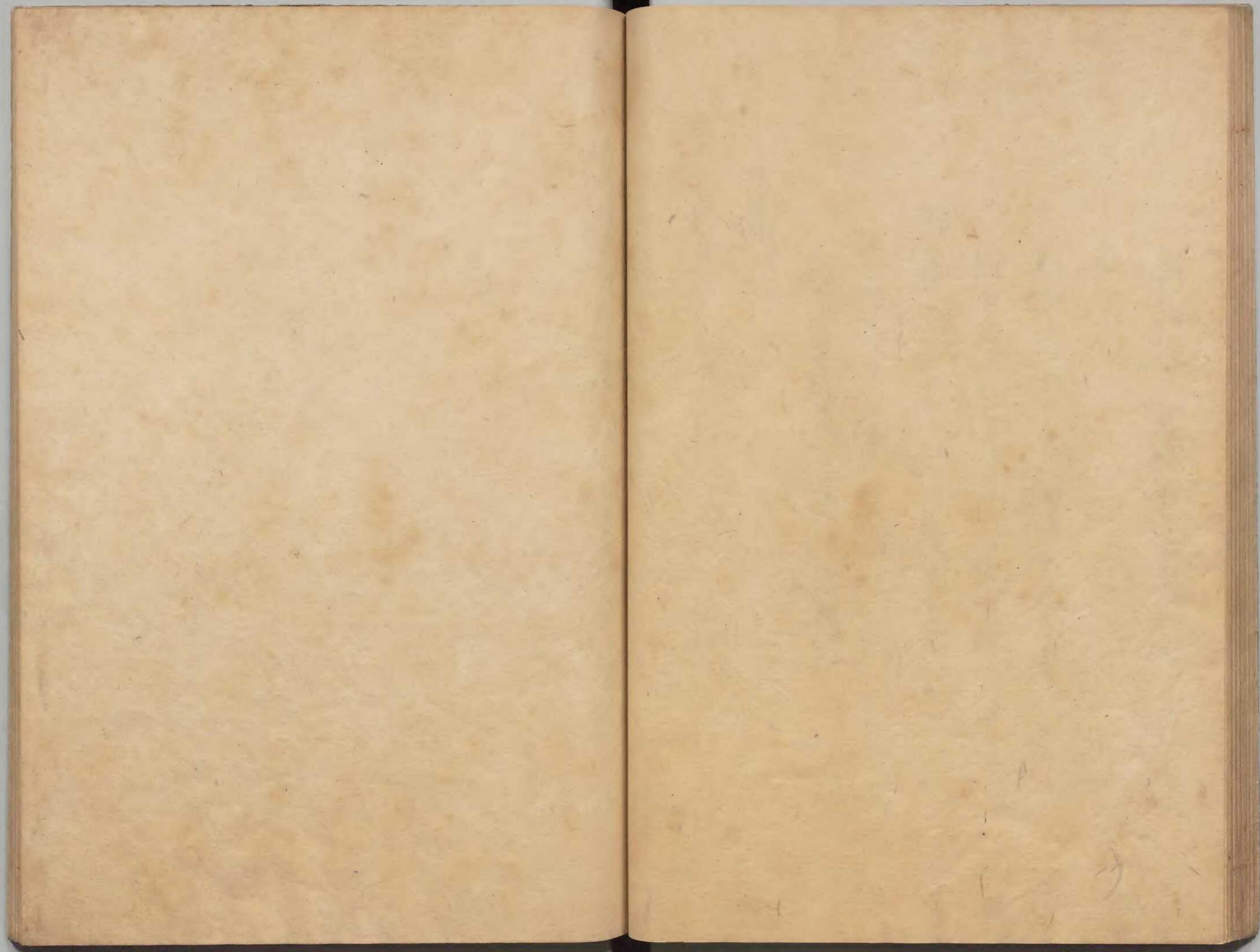
重次

森川吾太史 生回同家
幼少少く孤となり氏後と授肥
保取志野とあり森川となり
台徳院殿とあり
將軍あり

重勝

森川吾太史 生回氏孫
寛永十三年
將軍あり
同十四年より沖島とつむ
同十六年沙切とつむ

家乃紋 鳩殿草



● 森

森川

山形新庄

生田尾

織田浮正うゑただ右みぎ一いち所ところは森川氏後もりがわうぢご

と同おな比ひ良よ乃の城しろとといいふふ氏うぢ後ご姓せい解かい

たたららししくくななりり城しろ中なかよよとといいくく

病びやう死し

長次 ながつぐ

森川六左衛門 生四回あ
幼少あしく孤となり森川氏後より
杖 equal equal equal equal equal equal equal equal equal equal
とならのり

將軍あよりしはくくくゆつ

寛永十年より死と廿十六歳 にじゅうろくにん

長重 ながしげ

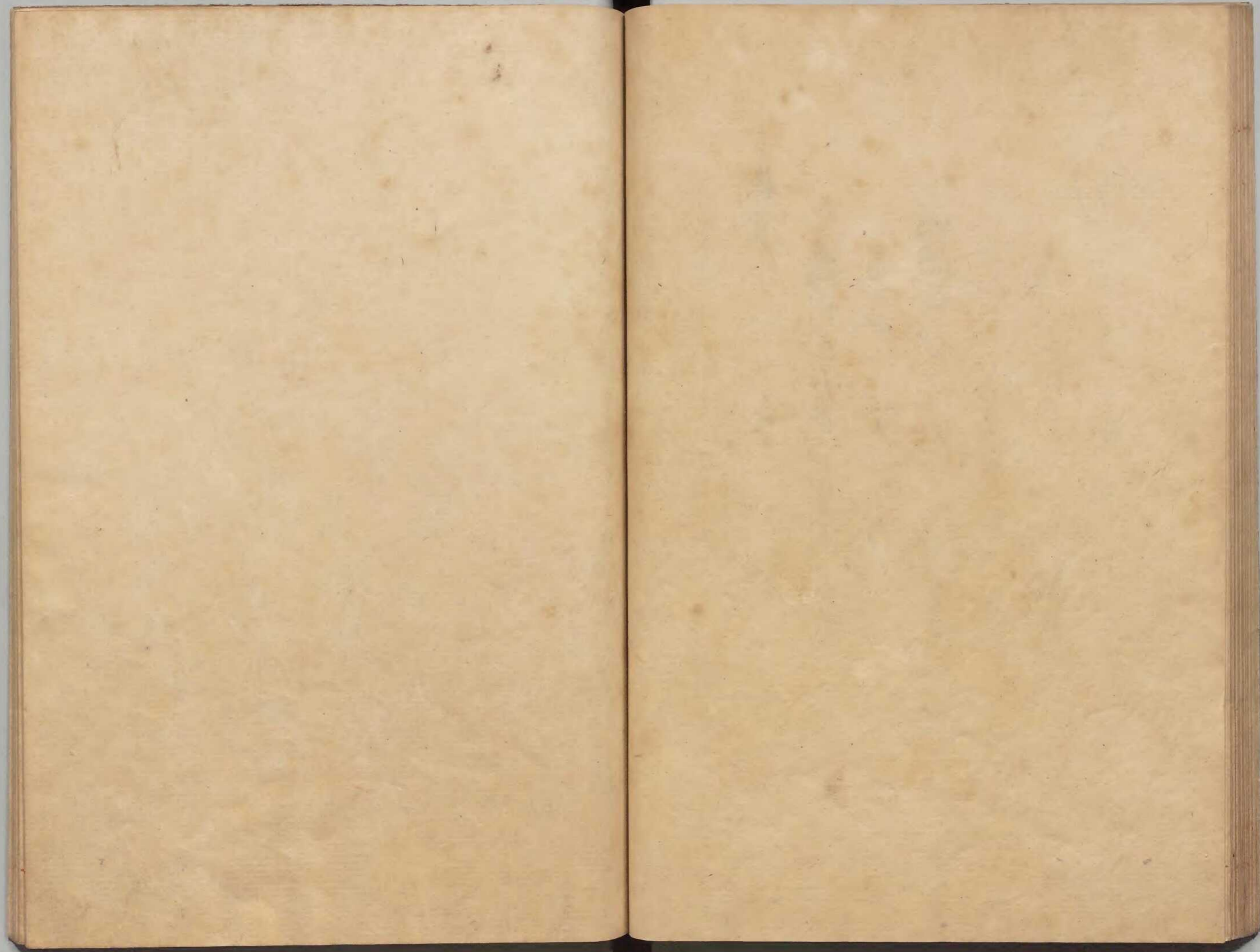
森川六左衛門 生四回あ

寛永十四年より

將軍あよりしはくくくゆつ

家乃紋

鳩酸草



西永さいえい

●
右實みぎのまこと

安藤やすどう

生田なまの

九十六歳九十のろくにん

法名ほふな通とほ正ただ

梶

源みなもと五郎ごらう

生田なまの武彦むひこ

重政しげまさ

縫殿助 生四国前

小糸長氏こいながしの次子ついで氏繼うぢつぐの長子ついで

八十八歳やそひに死しす 治承元年ちやうじやう

重次しげつぐ

二階三郎 生四国前

小糸氏繼こいづぐの次子ついで氏康うぢやうの長子ついで

重久しげひさ

孫左衛門尉 生四国前

氏康うぢやうの長子ついで

平和ひらの次子ついで氏康うぢやうの次子ついで重久しげひさの長子ついで

重久しげひさの長子ついで重久しげひさ

小糸左衛門尉こいざゑもん 里見合戦さとみあはせのときついでについで

巻一 軍初あり

小糸右田三郎と合戦は記武列

岩付河屋志の記

あしせ我初あり

伊ら鳥後列 身回寺に城あり

信玄臣列 火と

三つと焼作活の城とせしつ内宿山

と

身回寺より

城と焼

あり

城中乃

兵数多

あけ

け

重久

敵教人

城

歳字十六 法名正智

重名

自勝正

生同同あ

氏康よりしる久保松保と書す属と

小糸は武田勝頼合戦のとき甲斐

より物法家又左郎と大将より

豆が湯川の株より新らむら

敵株とくまらくゆりけり此重名

名あり

天正三年小糸は湯川と武列神名

川よりしるく合戦のとき此戦切と

わらん

小糸と由ら信法寺下野同新田り

しるくくくく小糸は軍名利と

得くかゆり敵江と襲けり此重名

氏康の仗よりして多陣あり

是戦切あり

小糸は佐野宗徳合戦のとき此重名

昔十一騎弘通を討つ家入に敵
百四十八人少く治と云ふるを
斗略と云ふ門に軍と合す海
中条皆川中合戦の事下野國大平
山の下ありて連と合す名あり
中条字松文と合戦の事江波郡
の邊と焼拂つる事十里と云ふ
とけりありて十三騎と二里先
家入に討敵と云ふ事あり

とけり十騎少げたる事三騎
敵と物せに二里ありて少く敵と戦ふ
事三ヶ方なり然れども急なる
ことあり

中条依竹と合戦と云ふ依竹
下野國江鹿と對陣なり岩山
の下ありてありて事三ヶ方
とありて敵と合戦
事三ヶ方又常陸國飛騨と云ふ合戦

乃ら記由案り執事手てせありり出候
あてふけらに金を取切あり
お別山田原新味乃ら記中村武敏が捕
陣あり手乃過りし柵と塔を重
一人らの神事大なる成外を起し
か鉄炮とる門く敵一人おあをさ
とひく備中絶云中村武敏が捕陣
少将三手乃陣あり鉄炮とる
とる事二度りしとる然も急

かくしてゆり氏政の目録
同籠城のうに蒲生飛騨守陣の
手陣中より山の神大なる
とれおとやうと陣く蒲生陣
場は押つけお残い陣はあせりの
ゆきあせりおかの取めく敵
あひはとあし

天正十八年

大権現より後しとるり
豊後守

と 位付る家

台座院殿よりつゝくまのり 夢

守りといふ金お守りせり

収

將軍よりしるすまのり

決まりと 位付る家

皇所

孫六郎

元和三年

台座院殿より 福

同七年より 新焼火のり

將軍よりしるすまのり

位付る家

重利

指原門 生国同家

元和七年

名座院殿よりお徳とく一つふそしる

昨勝こころ

孫存忠 生同月お

寛永元年

將軍ありて得とくきりし

同十年より西小姓こせ継ついでり書とくつとむ

重元しげもと

才守郎 生同月お

寛永元年

將軍ありて得とくきりし

同二年より西小姓こせ継ついでり書とくつとむ

同八年西書院しよせん書とくつとむ

存時

源左衛門 生同月お

寛永十三年

將軍あしう南みくをそくろり西水性
此の毒とつとむ

家乃紋 本丸あしうは二のりに支

● 改庶

留承

神皇御 後醍醐天皇の改 生國を以
 小糸長氏とて比氏徳氏康三氏は
 天文三年小糸よりて武列江乃
 城より居るに改庶あるとつとむ
 三代の昌高と軍初あつたふあり

三人の威状教通されり

虫勝

神宮脚 生田武新

小糸氏政よりつゝ久保戸の城より

後鳥羽に城より

永保七年國府卷の合戦より

廿五歳少く討死

政辰

神宮脚 後山城守政 生田因家

氏政よりい氏虫少く久保戸の城

より和と氏政律の字は給也氏虫

より國府とあづけらるは又是れ

苗系没落のより並山城の加勢

とかなりけ軍中よりい久保氏虫

より感懐とたまふ

小糸家也其の徳文感状也其の
よきありくあり 五十四歳少く死す

忠貞

甚重郎 生同同お

氏重一一人得の字代も

澄文これあり

天正十八年十二歳少く死す

とひく

大権現一福一

長也其の用ケ糸重陣も侍奉

同十丑年三月廿四日歳三十一あり

三十一

勝由

甚重郎 生同同お

元和二年九歳少く死す

台徳院殿も福一とあり十七歳

より沖島と清志

守重

長右衛門

三列

大権現

小島氏 康氏 政

清和 平

守宣

秀四郎

長右衛門

生四相模

小島氏 政 氏 宣

天正十八年

大権現 開東門 八回

守宣

氏 宣

子 宣 修

氏庶年三十九してのりさるる
台座院殿よほくさくさく
將軍あふりつるさくさく
寛永八年七十九歳三十九死す
法名貞源三十九

庶信三十九

孝宣卿 善有弟
小糸氏庶三十九しほくさくさく
律三十九の字とほく

法又三十九高きあり

天正十八年三十九之浦監物と先容三十九す
大権現三十九りしほくさくさく
細乃三十九事とほくさく

庶哉三十九

孝宣卿 生國武務
享文名十六年
台座院殿三十九しほくさくさく

元和三年より沖島へつとじ

正義

新島 生田同の

~~~~~

大権現よりいへんをいへるゆつり清く

台座陰殿よりいへるゆつり清く

大坂の陣のそと河辺侍中但し

属一侍奉二北よりいへる首級

と均ありうりち

將軍ありいへるゆつり清く

守次

三島門 生田武藏

元和八年より

台座院殿よりいへるゆつり清く

將軍ありいへるゆつり清く



守時しよじ

二九郎 生國河あ

寛永十三年

將軍あよりいんくわん

並裁あひの紋 三石置いしづき

守時あひの紋 九乃内よ石置

